

【ポスター発表】

## 戦前期の福田会育児院における幼稚園教育の展開

○ 淑徳大学（非常勤） 氏名 菅田 理一（会員番号 3416）

野口 武悟（専修大学・7944）

キーワード：社会福祉史、幼稚園、仏教

## 1. 研究目的

わが国で最も古い児童養護施設である福田会育児院〔1879（明治12）年の創設〕は、第二次世界大戦前、幼稚園や小学校などの教育機関を育児院内に設けていた。このうち、小学校教育の実際についてはすでに検討を行い、菅田らは本学会の第60回秋季大会において発表している（2012年）。しかし、幼稚園教育についてはいまだ詳らかとなっていなかった。そこで、本研究では、育児院内における幼稚園教育の展開を検討、考察する。

## 2. 研究の視点および方法

明治期から昭和戦前期における福田会育児院における幼稚園や小学校に関する記事等を『福田会月報』、同院所蔵資料及び新聞資料から抽出し、当時の育児院内における幼稚園教育について検討する。

## 3. 倫理的配慮

本発表では、日本社会福祉学会研究倫理指針にもとづき、福祉サービス利用者について述べる場合は個人が特定されないように配慮している。

## 4. 研究結果

## (1) 育児院内の小学校の閉校から幼稚園の開園へ

育児院内に簡易科小学校が設けられたのは1890（明治23）年であった。その後、1892（明治25）年に尋常小学校（本科）である「福田会育児院尋常小学校」に改組した。そのまま発展するかに見えた同校だが、教場の狭隘や財政的な事情などから、1907（明治40）年3月をもって閉校となった。閉校後、学齢期の院児は、近隣の公立小学校に通学することとなった。

育児院では、「福田会育児院管理規則」（1889（明治22）年制定）に「本院事業拡張ノ上ハ六歳未満者ノ為メ教師ヲ聘シ幼稚園ノ教育ヲ施スコトアルヘシ」（第32条の但書き）とあることから、小学校と同時に幼稚園を設置することも構想されていたことが分かる。しかしながら、実際に幼稚園が育児院内に設けられるのは、小学校閉校から3年後の1910（明治43）年になってからのことであった。

幼稚園の開園以降、満3歳になると幼稚園に入園し、6歳になると近隣の公立小学校に通学するという教育プロセスがとられることとなった。

## (2) 育児院内の幼稚園の様子

育児院内の幼稚園の様子は、院報である『福田会月報』にしばしば登場する。例えば、1913（大正2）年11月には、近隣の麻布幼稚園の園児が来園した様子が紹介されている（月報第132号）。また、幼稚園の様子は、一般の新聞にも取り上げられており、例えば、『読売新聞』の1919（大正8）年5月24日付の朝刊には「幼稚園の教室には寄付になった玩具や児童用品等の中々立派なのが備えられ「おしゃべりをしたり喧嘩をしたり騒いではいけません」等と云ふ可愛い教訓も目につきました」などとある。

### （3）育児院外での幼稚園教育の開始

1917（大正6）年9月30日の夜から翌日にかけて東京府下で台風による大水害が発生した。この水害による被災児童を救済するため、福田会は、同年10月に育児院外の亀戸町と砂村に天幕を張った臨時託児所を開設した。翌年には、亀戸町に恒常的な保育施設の設置を決め、1919（大正8）年に「福田会亀戸保育所」が設置された。1929（昭和4）年には「福田会亀戸保育所」を「福田会亀戸幼稚園」に改組し、東京府の認可を得た。

しかしながら、世界恐慌（1929年）の影響を受けて日本でも昭和恐慌が起こり、財団法人福田会理事会は経営の安定を図るために、「福田会亀戸幼稚園」の閉園もしくは他者への譲渡を決定するに至った。1932（昭和7）年4月、「福田会亀戸幼稚園」は、1922（大正11）年から同園で主事をしてきた山内勇仙に譲渡、経営分離され、「亀戸幼稚園」となった（同園は、現在も学校法人山内学園の経営のもとに存続）。

### （4）育児院内の幼稚園の閉園まで

1928（昭和3）年4月、育児院内の幼稚園を「福田会宮代幼稚園」と改称し、東京府の認可を得た。福田会の『昭和十六年度事業報告』によると、同年度で61人の園児が在籍し（保姆3人）、主な年間行事は、四方拝式外三大節式、明治神宮参拝数回、地久節式、入園式、修了式、遠足三回、皇太子殿下御誕辰奉祝式、花祭り、雛祭、武者祭（児童愛護週間）、魂祭、施餓鬼会、父兄会二回、体格検査二回、歯科診療二回、創立記念式、節分豆撒、戦捷祝賀会二回、託児所慰安会出席、家庭訪問などであった。

しかしながら、1945（昭和20）年5月25日の空襲によって育児院の建物のおよそ9割が焼失した。この事態により、福田会は、児童の収容保護事業のみに専念（事業縮小）することを決め、「福田会宮代幼稚園」は閉園となった。

## 5. 考察

福田会育児院では、院児の衣食住などの養育だけでなく、院児の成長・発達に不可欠な教育を育児院内で実施する方針を持ち、小学校、次いで幼稚園を育児院内に設置した。幼稚園は育児院外にも設けられた。しかしながら、育児院内の小学校と育児院外の幼稚園は、時期は異なるものの、財政事情などから閉校や他者への譲渡となって長期に経営することが叶わなかった。

岡山孤児院や仙台基督教教育院でも院内に教育機関を設けて児童の教育にあっていたが、今後、これら育児施設との比較検討を行うことで、さらに考察を深めていきたい。